コクゾウムシ・アズキゾウムシ・コクヌストモドキ 穀物等を好む虫

発生時期												
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

発生　多い

コクゾウムシ

“お米につく虫”として昔から有名です。成虫は、よく見ると象の鼻のような長い口（口吻）を持っています。

成虫・幼虫は、ともにコメやムギを食害します。また、幼虫は白いウジ状で、穀粒の内部で成長します。

時に、タタミから発生することがありますが、畳床のワラの中に穀粒が残っていたものを食べていたものです。

アズキゾウムシ

長期間貯蔵された、アズキによく発生する虫です。成虫は、室内を飛ぶのでよく見ることができます。幼虫はアズキの内部で成長し、豆を穴だらけにします。また、成虫になるまでの期間が短いため、短期間で大量に発生することがあります。

コクヌストモドキ

細長い甲虫で、名前のコクヌストは“穀盗人”の意味です。

成虫・幼虫は、ともに穀粉や穀粉製品に被害を与えますが、穀類に初めから発生するのではなく、コクゾウムシ等が食害し、穀粉ができた後で、二次的に発生します。家庭ではビスケット等によく発生します。

対策

穀類や菓子の長期保管を避け、早めに使用します。保管する場合は容器を密閉し、なるべく低温に保つとともに、被害を受けたコメは良く陽に干し、虫が逃げ出した後で、良く洗ってから炊飯します。

コクゾウムシ成虫（体長約3mm）

アズキゾウムシ成虫（体長2～3mm）

コクヌストモドキ成虫（体長3～4mm）

（写真提供：東京都）

新宿区保健所